平成 27 年度　文部科学省

高度人材養成のための社会人学び直し大学院プログラム

「生き生きと働く実践力のある助産師キャリアアッププログラム」

成果報告書

平成 28 年 5 月

国立大学法人長崎大学

本報告書は、文部科学省の「高度人材養成のための社会人学び直し大学院プログラム」委託費による委託業務として、国立大学法人長崎大学が実施した平成 27 年度「生き生きと働く実践力のある助産師キャリアアッププログラム」の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等には文部科学省の承認手続きが必要です。

1. 委託業務の目的

1－1. 業務題目

「高度人材養成のための社会人学び直し大学院プログラム」

生き生きと働く実践力のある助産師キャリアアッププログラム

1－2. 業務の目的

本事業は、産科医療の危機的状況を打開する一策として、助産師の質の向上と量の確保を主目的に、地域に根ざした実践力のある助産師のキャリアアッププログラムとその支援体制を構築するものである。

産科医療の危機的状況として、現在、産科医不足、産科施設の閉鎖による集約化・偏在化、医師主導のハイリスク分娩の増加等が挙げられる。本県の産科・産婦人科を標榜する医療施設は、病院 17 施設、診療所 54 施設であり、年間分娩件数は 11,723 人で、病院と診療所の比率は約 1：2 となっている。助産師の就業数は 389 人で、病院と診療所がほぼ 1：1 の割合で勤務しており、地域の診療所数に比べ中央部の病院に偏在している状況である（2012 年）。ローリスク分娩を扱う地域の診療所では助産師不足を標榜しており、母子へのきめ細やかなケアが困難な状況がある。また、女性の社会進出等により出産年齢が高齢化してきており、合併症をともなったハイリスク分娩も増加傾向にあり、高度医療を担う周産期医療センターでの高い実践力をもった助産師の需要も高まってきている。

また、産科医療の現状は、産科の混合病棟化や閉鎖による看護師としての勤務実態、病院主体の出産の増加、医師主導のハイリスク分娩の増加、また、助産師のための系統的な現任教育プログラムの欠如などによって、助産師たちが自立してケアを行うような実力をつける環境が希薄になってきている。本事業の教育プログラムは、地域に根差した実践力のある助産師の育成、助産師の確保として潜在助産師の掘起しに貢献し、さらに助産分野における継続教育の認証システム開始に伴う動機づけとなりうる。本県のような多くの島嶼部を抱える地域は、県下の周産期ネットワークをもとに地域の周産期医療を支えている。周産期医療センターに勤務する助産師が、本プログラムを経て地域のコアとなりリーダーシップをとり、自立した助産師として自信をもって産科医療の一端を担うことができる（質の向上）。また、助産師がライフチェンジによって離職した後、継続教育を受ける機会を得ることによって潜在助産師の掘り起しと再就職支援を促進することができる（量の確保）。最新の知識と技術を修得できるように系統的にプログラムされた本事業によって、助産師のキャリアアップを図って、プロフェッショナルとして活躍する場を広げていくことが期待できる。

本キャリアアッププログラムは、最新の情報リテラシーの修得科目、実践能力の修得科目、対人関係能力の修得科目、さらに教育力・指導力の修得科目と専門性の意識改革の５つの修得科目の系統的・網羅的な内容を柱とする。実践力を培い自律した助産実践のできる「プライマリ助産師認定コース」と、さらに教育的・創造的助産実践のできるマネジメント能力を備えた「コアリーダー助産師認定コース」の２コースを設ける。プログラムの遂行にあたっ

て、県内の主要周産期医療施設との協働および組織化により、支援体制および学習環境を整えるシステムを構築する。各コースを修得した後、長崎大学・長崎県産婦人科医会・長崎県助産師会のジョイント・サティフィケートを授与する。

2. 平成 27 年度における実施内容および成果

【概要】2年目である本年は、初年度に計画した教育プログラムとして配信スケジュールに従ってeラーニングコンテンツの配信を開始した。配信後の受講生の支援や質問への対応を行い、受講状況をアクセスログから確認した。また対面授業、演習、受講生同士の勤務施設を行き来する交流実習等を企画し、実施した。さらに今年度のカリキュラムの見直し、次年度のカリキュラム開発やeラーニングコンテンツの撮影、配信準備を行った。また1年目のプライマリ助産師認定コースの修了式、次年度の受講生の募集、選定、オリエンテーションを行った。

eラーニングコンテンツのネットワーク及びサーバー運用と管理を実施した。

2－1. 教育プログラム実施・次年度カリキュラム作成

１）e ラーニングコンテンツの配信、対面授業・演習、交流実習の企画と実施

【実施内容】初年度に企画、策定した教育プログラムより、1 年目の e ラーニングコンテンツの配信計画を立案し、2015 年 4 月より実際に配信を開始した。また対面授業（コミュニケーションに関するアサーティブネス、助産実践の中で生じる共感疲労の対処方法等）や助産実践に欠かせない演習（新生児蘇生法、母体の救急時の対応）を企画し、計 5 回実施した。アップデートな実践能力を修得する科目の他施設交流実習では、受講生各々が他施設に赴き、それぞれの施設における助産ケアの実際を学び、助産師間の交流を深める実習を実施した。

【成果】教育カリキュラムに基づき、周産期医療における最新の知識や技術に精通した講師により授業が行われ、最新の知識を盛り込んだ授業を配信した。一方的な知識の供給だけではなく、対面授業や演習等により意見交換も行われ、双方向のやりとりにより、内容をより深く学ぶ学習の機会を提供することができた。e ラーニングについては、各内容を 2 か月ずつ配信し、更新していった。アクセスログにより、受講者の学習状況を把握したところ、受講者全員が期間内に受講していたことを確認できた。他施設交流実習では、自施設で経験できない助産ケアを学ぶ機会となった。受講生はもとより、受け入れ側の各施設においても、助産師間の交流や自施設へのフィードバックをもらう機会になったという高い評価が得られた。

２）受講生受講時の支援や質問対応

【実施内容】本事業では主な教育方法は e ラーニングによる自己学習である。評価の方法として、学習内容の理解力を把握するために、コンテンツ毎にテストの実施、レポート提出を課した。学習上で生じた疑問や質問への対応として LMS（Learning Management System）上における掲示板や e-mail を利用しての個別対応を行い、定期的

なアンケート実施により必要な部分は改善していった。受講生 1 人 1 人が脱落する事なく、学び直すためのきめ細やかなサポートを実施した。

【成果】LMS 上のアクセスログによると、開講当初は週末や夜間帯の利用が多く、配信終了日近くにアクセスが集中していた。慣れてくるに従って、週日や昼間の時間帯のアクセスも増え、受講生各々の受講のスタイルが確立していったことが伺えた。受講生への受講後の定期的なアンケートの実施により、各科目への興味、理解度や実践の場での有用度、授業を受講した感想など、生の声を聴くことにより、改善できる部分はできるだけ改善していった。アンケート結果によると、臨床薬理学、産科合併症、母子感染といった臨床の場ですぐに応用できる知識に関する内容については興味や有用度に関する満足度は高かった。一方、EBM（根拠に基づいた医療）の実践や制度・施策、周産期領域のガイドラインといった臨床の場面を支えるような内容については興味や有用度に関しての満足度はやや低く、難しかったという結果であった。

３）プログラム広報活動・受講生の選定とオリエンテーション

【実施内容】コアリーダー助産師認定コース（2 年間養成コース）、プライマリ助産師認定コース（1 年間養成コース）の 2 つのコースは継続し、それぞれ 5 名ずつの募集を行った。応募期間は約 1 か月を設けた。協議会のメンバーに受講者を推薦してもらうように依頼した。募集要項や応募用紙はホームページからダウンロードできるようにするとともに、長崎県助産師会会員にはすべて配布した。プログラムの詳細については、インターネット上で閲覧できるようにした。長崎大学長、長崎県産婦人科医会会長、長崎県助産師会会長のビデオレターを撮影し、当事業の概要を広報した。

【成果】2016 年 1 月 29 日に応募を締め切り、14 名（コアリーダー5 名、プライマリ 9 名）の応募があった。コアリーダーは協議会メンバーからの推薦を経て応募された。応募の動機、受け入れ状況、プログラム修了後の波及効果等を考慮し学内で協議した結果、コアリーダー助産師認定コース 5 名、プライマリ助産師認定コース 9 名全員を受講生に決定した。また、受講決定者を対象としたプログラムオリエンテーションを実施した。また、今年度から科目等履修生（修士入学後の単位認定を行う）として募集したところ、受講生 21 名のうち 8 名の希望があり、継続学習の動機づけとして効果が認められた。

2－2. eラーニングコンテンツのネットワーク及びサーバー運用と管理

１）サーバー・ネットワーク運用と管理

【実施内容】サーバー・ネットワーク運用と管理について、順調に経過し特にトラブルの発生はなかった。当初予定では、e ラーニングコンテンツの配信を 2016 年 1 月 31 日までとしていたが、収録が遅れた講義内容への対応と受講生からの教材再公開の要望に応えるために、2016 年 2 月 20 日まで配信を延長した。また、受講生には全員に VPN（Virtual Private Network）を配した PC を配布し、受講がスムースにできるように

受講環境を整えた。

【成果】サーバー・ネットワークの運用について、ICT 技術担当者とも常に緊密な連携をとり、トラブル時は速やかな対応ができ、結果として、大きなトラブルもなく経過した。遠隔操作による学習方法として e ラーニングが一定の効果をあげたことが確認できた。

２）次年度 e ラーニングコンテンツ撮影・講義資料等の配信準備

【実施内容】プログラム委員会で検討した内容に従って、初年度に撮影できなかった講師の e ラーニングコンテンツの撮影を追加し、講義資料等を専用サーバーに掲載し、配信の準備を行った。また、2016 年度に新たに開講する科目である「教育力・指導力を修得する科目（19.5 時間）」「専門性の意識改革を修得する科目（19.5 時間）」のうち、約半分の e ラーニングコンテンツを撮影し、講義資料等のサーバーへの掲載、配信のための準備を行った。

【成果】１年目の開講科目である「Update な情報を修得する科目（24 時間）」「Update な実践能力を修得する科目（87 時間）」「対人関係能力を修得する科目（12 時間）」のうち、e ラーニングコンテンツが未収録だった科目に加え、2016 年から開講する 2 科目の e ラーニングコンテンツの撮影を実施した。講師への依頼時には、e ラーニングコンテンツの資料となるパワーポイントの作成のコツ（スライドのサイズや区切り等）や、撮影方法などを事前に伝えておくことで、スムースに撮影することができた。また、クロマキーを用いた映像の撮影は、生の授業に近い雰囲気で収録することができた。

2－3. 次年度教育プログラムの開発

【実施内容】プログラム委員会を隔月開催し、2 年目コアリーダー助産師認定コースの科目内容を検討していった。「教育力・指導力を修得する科目（19.5 時間）」「専門性の意識改革を修得する科目（19.5 時間）」、それぞれ e ラーニングによる講義（8 コマ、12 時間分）と 5 日間の集中実習からなる科目構成とした。前者の教育力を養う科目については、勤務地における学生指導の実際を演習に組み込んだ。後者のマネジメント力を養う科目については、離島での地域実習か、海外での国際助産学実習かのいずれかを修得するよう計画した。今年度作成した 2 年目コアリーダー助産師認定コースの教育プログラムは以下の表の通りである。

【成果】2 年目の教育プログラムを作成できた。教育力やマネジメント力を培う科目は、e ラーニングのみでは十分に行なうことが困難であり、それぞれの科目の半分を実習内容として位置づけた。実際に、臨床指導者として実習する学生の指導を行なったり、リソースの少ない離島での地域の連携を学んだり、海外の助産師の活動をとおして日本の助産のあり方を再考する機会をつくることとした。教育力・マネジメント力を養

う内容として、e ラーニング講義・実習を通じて系統的に学ぶことができると期待している。

＜教育プログラム＞

4. 教育力・指導力を修得する科目（2 単位）〈19.5 時間〉 目標：保健指導の実際・職業倫理などの学習を通して、指導力を高める。また、助産学生の実習指導を通して臨床指導のあり方を理解する。			
	授業項目	詳細	教育方法
1	保健指導のコツと実際（～性教育を例に～）	保健指導の必要な場面 指導の実際 性教育について	講義（e-ラーニング）
2	学び続ける組織風土	継続的に学び続ける組織 動機づけ 研究と臨床	講義（e-ラーニング）
3	災害時の対応の実際	母子の災害時の対応 東日本大震災後の救援と対策 災害後に学んだこと	講義（e-ラーニング）
4	ラボラトリー方式体験学習	体験を通して、人と人とのコミュニケーションのあり方を検討する 自分らしく成長する学び方を学ぶ	演習
5	ラボラトリー方式体験学習		
6	ラボラトリー方式体験学習		
7	職業倫理・コアコンピテンシー	助産倫理 助産師のコアコンピテンシー	講義（e-ラーニング） または対面授業
8	助産学生の臨床指導 1	助産教育と助産師育成 実習の意義、目的と到達目標、実習指導者の役割、指導方法 On site での看護・助産学生指導	講義（e-ラーニング） 実習
9	助産学生の臨床指導 2	On site での看護・助産学生指導	実習
10	助産学生の臨床指導 3	On site での看護・助産学生指導	実習
11	助産学生の臨床指導 4	On site での看護・助産学生指導	実習
12	助産学生の臨床指導 5	On site での看護・助産学生指導	実習
13	助産学生の臨床指導 6	On site での看護・助産学生指導	実習
14	助産学生の臨床指導 7	On site での看護・助産学生指導	実習
15	助産学生の臨床指導 8	On site での看護・助産学生指導	実習
16	助産学生の臨床指導 9	On site での看護・助産学生指導	実習
17	助産学生の臨床指導 10	On site での看護・助産学生指導	実習

評価方法：

1. e-ラーニングによるテスト
2. 実習参加度・レポート

5. 専門性の意識改革を修得する科目（2 単位）〈19.5 時間〉

目標：キャリアディベロップメント、マネジメントなどの学習を通して専門職としての管理能力を高める。また海外/離島での演習を通して様々な臨床実践のあり方を理解する。

	授業項目	詳細	教育方法
1	長崎県の周産期医療	長崎県の周産期医療の取組み	講義（e-ラーニング）
2	安全と施策	周産期数値の分析と意味づけ 産科医療補償制度	講義（e-ラーニング）
3	キャリアディベロップメント	キャリアディベロップメント 助産実践能力習熟段階（クリニカルラダー）の考え方	講義（e-ラーニング）
4	看護師のための書き方ノート	記述力をつける-仕事の文書作成の基本-	講義（e-ラーニング）
5	マネジメント	管理のあり方・考え方	講義（e-ラーニング）
6	人に仕事を与える・任せる	看護管理塾　看護ものがたりより	講義（e-ラーニング）
7	開業助産師としての助産管理	開業助産のマネジメント	講義（e-ラーニング）
8	変革（アントレプレナー）・リーダーシップ	チェンジセオリ、リーダーシップ、チームのコンピテンシー、メンバーの価値を高める。	講義（e-ラーニング） または対面授業
9	離島演習・国際演習 1	五島／オレゴンヘルスサイエンス大学	実習
10	離島演習・国際演習 2	五島／オレゴンヘルスサイエンス大学	実習
11	離島演習・国際演習 3	五島／オレゴンヘルスサイエンス大学	実習
12	離島演習・国際演習 4	五島／オレゴンヘルスサイエンス大学	実習
13	離島演習・国際演習 5	五島／オレゴンヘルスサイエンス大学	実習
14	離島演習・国際演習 6	五島／オレゴンヘルスサイエンス大学	実習
15	離島演習・国際演習 7	五島／オレゴンヘルスサイエンス大学	実習
16	離島演習・国際演習 8	五島／オレゴンヘルスサイエンス大学	実習
17	離島演習・国際演習 9	五島／オレゴンヘルスサイエンス大学	実習
18	離島演習・国際演習 10	五島／オレゴンヘルスサイエンス大学	実習

評価方法：

1. e-ラーニングによるテスト
2. 実習参加度・レポート

3．成果の外部への発表

3－1．学会等における口頭・ポスター発表：なし

3－2．学会誌・雑誌等における論文掲載：

松井香子, 江藤宏美, 佐々木規子, 山本直子, 永橋美幸, 宮原春美, 大石和代, 赤星衣美, 野間田真紀子: 「生き生きと働く実践力のある助産師キャリアアッププログラム」実施報告 2014. 保健学研究，27, 55-62, 2016.

3－3．特許出願：なし